

開催地名：東京都多摩市	
開催日時	令和2年1月25日（土） 9：35～10：55
開催場所	永山公民館 ベルブホール
語り部	菊池 健一 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、防災士、防災関係機関、地域住民 約80名
開催経緯	防災訓練等への参加者の高齢化、固定化が進んでいることと合わせて、ニュータウン地域は、団地内や近隣団地との関係が希薄な点も防災活動にはマイナス要素である。また、地盤を過信し、備えが不十分な市民が多い。今回、東日本大震災の語り部による講演会を開催し、少しでも防災に対する意識改善を図りたい。
内容	<p>（1）震度7の揺れ</p> <p>東日本大震災でわが町は震度7を記録した。震度7の揺れともなれば、身を守る動作が一切できない。私は、玄関ドアを開けたところであったが、5メートルほど飛ばされた。火の始末や出口の確保もできない。揺れが落ち着いてから、私は近隣の安否確認に回った。若い人は働きに出ていて在宅するのは高齢者か学齢前の子どもが多く、皆泣いていた。</p> <p>（2）避難誘導について</p> <p>町内会では、大規模災害に備えて、毎年、避難訓練を行っていたが、東日本大震災では、ほとんど役に立たなかった。激しい揺れに動揺する中、道路は寸断され、携帯電話、固定電話ともつながらないため、火の始末、出口の確保、家族への連絡、周りの人の安否確認等、身を守る全てのことができなかった。</p> <p>避難所への避難についても、速やかに移動できない人たちが結構いた。私は、3つの町内を避難誘導して回ったが、通帳と印鑑を探して、逃げない高齢の女性がいたため、強い口調で避難を促した。後に感謝されたが、災害時は毅然とした態度で避難を促さないといけない。また、夜間はどうしても周囲の目が届かないので、自警団を編成して、区域のパトロールを行った。</p> <p>（3）避難所の運営</p> <p>避難所の運営についても、スタート時点からはうまく機能しなかった。運営を阻害したものとしては、情報の不足、燃料の不足、通信手段の不足の3つが挙げられる。また、1つの避難所に、8つの町内会が集まっており、町内会ごとでは避難訓練を行っていたが、合同では実施してないため、連携がうまくいかず、運営に支障が出た。地震4日目まで物資が届かなかったことも不安をおおった。対策として、町内会長を中心とし、町内会ごとにまとまってコミュニティ最優先の</p>

運営を進めた結果、情報収集と伝達に効果があった。そんな避難所生活での主な問題点は、以下のとおりである。

① トイレの不足

トイレ新設を他県にお願いしても、届くのに時間がかかった。

② 避難所内のスペースの問題

早く避難所に来た人から場所を確保するため、お年寄りや女性は、入口近くの寒い場所しか空いていない。

③ 避難所の過密

一人でいるのが怖い、また食べ物が貰えるからという理由で、避難所に来る人もいる。自宅で暮らすことのできる人には、帰宅してもらった。家庭訪問により物資の確認を行う。(避難者 1,500 名 → 273 名)

④ ペットの問題

避難所にペットを連れて来た人もいたため、苦情が出た。ペットは癒しでもあるため、人の生活場所とは別のところにペットの避難所を作った。

⑤ 指定避難所はお祭り騒ぎ

他県から慰問で来て、手品や吹奏楽の演奏が続くと、初めは良いが苦情が出るようになった。

(4) 震災の教訓

行政、町内会、民生委員等との連帯を密にし、情報の共有化を図ることが必要であると感じた。また、地域、行政、学校と連携して、積極的な訓練の実施を行うとともに、町内会行事等に積極的に参加して、近隣住民とのコミュニケーションを取っていくことが必要と感じた。そして、何より求められるのは、迅速な判断と行動である。



開催地より

実体験に基づく貴重なお話を聞くことができ、今後の自主防災組織の拡大、連携強化、そして避難所運営組織の連携につなげていきたいと思う。